

目次

田上時子のエッセイ 自殺者 3 万人が語るもの……………	1
特集 メグさんの 性の健康教育 ファシリテーター養成講座（中級） 講座報告……………	2～3
活動報告 助成金による事業……………	4
スター・ペアレンティング始めます。……………	4
グループ訪問 ペアレンティング Cafe……………	5
リレーエッセイ 奥川聖美／岡田ひとみ……………	6
講座インフォメーション……………	7
会員の紹介・入会のおさそい……………	8
編集後記……………	8

田上時子のエッセイ

# 自殺者 3 万人が語るもの

警察庁の発表によると、昨年 1 年間の全国の自殺者は 32,325 人、前年度に比べると 6%減だが、統計を取り始めた 1978 年以降、4 番目に多く、7 年連続で 3 万人を超えたことが分かった。

男女別では男性が 23,272 人、女性が 9,053 人、一日平均、65 人の男性が、25 人の女性が自らの命を絶っている、ということになる。

日本は今や自殺大国であり、圧倒的に男性の方が多く、30～50 歳代男性が全体の 4 割を占める。

遺書のあった 10,443 人の動機を見ると、病苦などの「健康問題」が最多で、負債や生活苦などの「経済・生活問題」、家族や夫婦間などの「家庭問題」が続くが、30～50 歳代男性の動機で最も多かったのは、借金苦や生活苦などで、経済的に追い詰められる働き盛りの男性の姿が浮き彫りになった。

NPO 法人 国際ビフレンダーズ 大阪自殺防止センターによると、2003 年の電話相談受診数の男女別は、男性相談者数は 7,837 人、女性相談者数は 8,885 人と報告されている。単純に自殺者数と比較して割合をいうわけにはいかないが、2003 年度の男性の自殺者は 24,963 人、女性自殺者は 9,464 人で、こ

こから見ると、女性のほとんどは、心のうちを誰かに打ち明けているが、男性は弱音をはけずに耐え忍び、喪失感や絶望感のすべてを抱え、誰からの支えも求めずに、自ら死を選ばざるをえない無念さが見え、なんとも哀しい。

妻子のため、と過労死寸前まで働き続け、それが尽きたときに、残された遺族としての妻子の憤りや悲しみ、怒りは考えられないのだろう。だがしかし、とあえて言いたい。

男性よ！ 妻子を想うなら、妻子に悩みや苦しみを打ち明けてみてはどうか。夫（父親）が働けなかったら、妻や子が働けばいい。喜んで働くだろうし、それが家族というものだろう。家族の誰かが働けない事情があるなら、生活保護を受けるという選択肢もある。

男性よ！ 「死なないでくれ！」と念じている。世の子どもたちに「命を大切にするように！」と説くためには大人自らが命を大切にすることを実践することが最大の「生の教育」だと、わたしは考えている。